## 韓国の科学館に行ってきました その1

私は2024年12月に、全国科学館連携協議会が開催する海外科学館視察研修に参加する機会をいただきました。韓国・ソウルを中心に、3つの科学館を公式訪問しました。韓国と日本の科学館における似ている点やちがう点を知り、現地の職員との意見交換会も盛り上がり、多くのことを学ぶことができました。本記事では、この研修を通して見学・体験させていただいた展示やプログラムなどについて紹介します。

## 国立果川科学館

最初に訪れたのは国立果川科学館。 地下鉄の大公園駅を出るとすぐにこの大 きな建物が目に入り、科学館の広大さを 感じました。

たくさんの体験型展示で構成された Science Exploration Hallには、力学や 光など、主に物理にちなんだ展示がありま した。







左の写真は、光の全反射を観察できる 展示です。筒から水が飛び出しています。 その飛び出す水の中を、赤・青・緑色の光 がそれぞれ水流の中からはみ出ることなく 進んでいきます。水流の中には光の軌跡 が現れ、光が水流中をどのように進んでい るのかが観察できます。

ROBO-Qという地震体験装置もありました。ジェットコースターの座席のような見た目で、動きもまさにそれに近いものでした。前方のスクリーンの映像に合わせて、座席がグルグル回転します。まさか科学館で激しい動きを体験するとは思わず、予想外の動きに驚きました。電力会社とコラボして制作された体験型展示のようです。



未来をテーマにしたScience Future & Fiction Hallには、自動運転の車や植物工場などが展示されていました。植物が緑色に見えるのは、緑色の光を反射しているからです。植物にとって緑色はいらないのです。植物工場の展示は人工的に光を調整し、植物に適した波長の光で植物を育てる、そのような様子を表現していました。





Advanced Technology Hallでは高分子や化学繊維をキーワードに化学にちなんだ展示が展開されていました。特に印象に残っているのが左端(←←)の写真です。細い透き通った糸が上から垂れているのが見えますか。これはナイロンで、実際にここで作られているそうです。できたての繊維が上から垂れてくる、そのような魅せ方に意外性を感じました。

## 火星体験ができる?





ただ展示を観るのではなく、シナリオに沿って体験ができるエリアもありました。この Space Analogでは、火星へ行くための訓練(写真左)や、火星でのミッション(写真右)が体験できます。訓練では火星の重力下でのジャンプが体験でき、体がフワッとする感覚を味わえました。訓練後は火星へ(エレベーターで)向かい、エネルギー貯蔵システムの組み立てミッションを行いました。指示通りに機器の組み立てとコードの差し込みができれば完成です。火星へ行く宇宙飛行士の気持ちが体感できました。

## 木村 優斗(科学館学芸員)